

未来を創る家族のチカラ!! 幸運を引き寄せる愛天愛人愛国の生活

# 「生まれたことを深く感謝する」

真の父母様自叙伝 心の書写オープン礼拝 於：浜松北家庭教会 2020.5.24

3月以降、インターネット配信による家庭礼拝を実施しておりますが、月に1度のオープン礼拝も同様に開催して、書写会員を含めて広く参加して頂きました。

教会活動を紹介するスライドショーの上映後、青年部エンターテイメントとして、各家庭にて撮影した歌唱映像を合成して、合唱のように編集して上映しました。

特別講話では李観東教会長より「人類の涙をぬぐう平和の母」の自叙伝より、み言を抜粋して、「生まれたことを深く感謝する」の題で講話を頂き、神様の子女として生まれたことを実感し、感謝して歩いていく時、どのような試練も越えていくことができ、真の幸福を分かち合う家族になることができると、メッセージを伝えて下さいました。

Zoomを活用して多くの家庭から、家庭礼拝の様子を中継し、ともに分かち合う時間として、過ごすことができました。



## <青年部エンターテイメント>

礼拝が自粛となっている期間にあり、オープン礼拝のエンターテイメントを映像にて作成して披露しました。歌や楽器演奏の映像を合成して、まるで同じ部屋で合唱しているような映像となりました。どこにいても繋がり合える時代になり感謝の思いが湧くとともに、孝情文化をさらに広めていきたいと思える内容でした。

## <特別講話>

生まれたことを深く感謝することが出来る人は幸せだと思います。神様の責任はこの地上にメシヤ、真の父母を誕生させることです。真の父母様の誕生、そして聖婚なされることにより、人類救済の摂理を歩まれているということです。

祝福二世、三世が生まれるためには、一世が真の父母様により祝福を受けることができたという事実が必要です。私たちは自分が存在していることは当たり前だと思いがちです。感謝するための知恵を頂くために、子供にそのことを聞きました。生まれたこと感謝しているか聞いたら、感謝していると即答しました。

その次に、生きていくことに喜んでいるか聞いたら、すぐに返答は来ませんでした。親から生まれたことは感謝ではありますが、現実の苦労に対して常に感謝するという事は簡単ではないようです。宇宙の聖なる作用により生まれたということをお互いに感謝し合うようになれば幸いです。





私達は天から愛されて生まれました。創世記 1 章 26-28 節の聖句のように、神様の似姿として、神の子女として生まれました。私たちは、神様の永遠の真の愛を中心として、全てを投入して創造された存在です。父母なる神様は、愛する子女が喜ぶ姿を通して、ともに喜ばれたいということです。なので、親は子女の誕生日を疎かにすることはできません。

地上の生活で、生活するための時間などを除くと、人生は7年しか残らないと言われます。人生はゴム紐と同じであり、自分が死ぬときには富と名誉は泡となって消えます。神様の三大祝福の成就を目指して歩いていくことが大事です。子女が親から愛されたことに対して、喜びをもって応えようとするのが親孝行です。さらに、親が切実に願っていることに対して応えようとするのが孝情だと言われます。み言が種となって実が実るように、人生の目的を忘れずに歩んで行く必要があります。

最も良い人生は何でしょうか。家庭連合では人のために生きることを教えますが、それは犠牲の道です。苦労があるし、時間を費やさないといけないことも多いです。しかし、犠牲は喜んで捧げたことなので、後悔することはないし、被害者の意識を持つこともありません。もし、そのような思いがあれば、真の愛を感じる事もできません。

幸福というものは、幸福にしてあげたいという心情から与えられます。真の愛の法則をよく知る必要があります。道路交通法という規則がありますが、愛にも道路交通法があります。愛は必ずしも幸福な結果をもたらさないのは、愛の優先順位を間違えたことによります。真の愛の法則は、先に全体の為、相手の幸福のために与えることです。愛されることよりは、愛することを優先することです。そうしなければ、愛の事故に遭ってしまいます。

新型コロナウイルスの影響が全世界を恐怖に貶めております。肉体は医療の発達によって治療することができますが、人類はそれ以上に深刻な不幸のウイルスにかかっております。自殺者の増加、夫婦の不和や家庭内暴力など、人類の不幸病を完治することはできておりません。人類の不幸の病気を解明しなければ、真の幸福な道を開くことはできません。

聖書を見ると、人類は墮落して樂園から追放され、兄弟間での殺人など、人間の欲望を中心とした生き方により、親を失った孤児の立場として真の愛を感じられずに生きてきました。何のために生まれたのかも知らず、生まれたことを怨み、不幸な人生を歩んできました。

そのような人類歴史を清算するべく誕生されたのが、イエス様でした。罪なき立場として人類を救う立場でありました。しかし、人類の罪ゆえにイエス様を処刑してしまい、再臨を待つことになりました。

真のお父様は人類の不幸の根源を解明するために歩まれ、あらゆる過酷な環境を越えていきました。日本にも留学をされながら、私たちが神様と一つになることができるように思慮されました。

神様のことをはっきりと知ることは難しいものです。真のお母様が独り娘、人類の母として誕生されましたが、その位置に立つための条件がいくつかありました。例えば、ヤコブ家庭の蕩滅復帰の為に、真のお母様は一人で 12 名の子女を生まなければならないという条件の前に、自分の一代で全ての摂理を終わらせるという決意のもと、歩られました。そのような決意をされたのは、真のお母様が神様の存在を知ったからであると語られました。





真の父母様は不思議と同じ誕生日であります。真のお母様が生まれたことについて、真のお父様が神様の前に、新婦が誕生されたことを感謝された内容があります。

真のお母様の人生は波乱万丈であったと語られます。日帝時代に生まれ、朝鮮戦争の最中を南下して生き延び、学生時代を過ごされながら、真のお父様と出会い、聖婚され、真の父母として歩まれた生涯であります。宇宙の母として、子羊の婚宴をすることができ、私達も真の父母様を通して生まれ変わりました。どのような姿が深い人生になるのかといえば、生まれたことに感謝して生きる時に、神様とともに生きる人生となります。

真の母になる為の摂理的な条件として、サタン世界の讒訴条件を越えて、墮落前のエバの立場を復帰する必要がありました。真のお母様はそのような神の血統をもって生まれた方であります。私達もそのような条件のもとで、祝福家庭として新しく生まれることができました。信仰を失ったら、私たちの価値も見失ってしまうでしょう。信仰が薄い人は信仰が深まるように、神様に祈り、意識していく必要があります。人に証しすることができる、確信的な信仰を掴むことができるように励みましょう。

私が生まれたのは相手の為であり、死ぬときも相手の為に死ぬというように通じ合うとき、真の愛の原則を中心として理想家庭の実現に向かいます。生まれたことは当たり前で感謝すべきものでありますが、その価値をもう一度考える必要があります。愛の対象として、愛によって生まれたということを感じ、隣人も愛することができれば良いです。神様から生まれたということを実感すること、実感ができなければ信じること、常にともにある神様を実感し、信じる人は、どのような環境も越えていくことができます。本当の喜びを分かち合うことのできる夫婦、親子、家族関係になることができるでしょう。

#### <参加者の感想>

・本日の礼拝のみ言を受け、真のお母様は、幼い時からご自分に与えられた特別な使命を自覚しておられ、その責任を果たすために、人類で唯一の真の母として生きてこられた。困難を極める過酷な道のりであったにも関わらず「生まれたことを深く感謝する」という思いでおられることに感動しました。三代にわたる一人娘の絶対信仰が、人類の未来に希望を開いてくださったことを思うと、自分も子供を持つ親として、子供たちに何を受け継いでいけるかを真剣に考えなければいけない。子供たちが「生まれたことに深く感謝」できるように親子で話し合っていきたいと思いました。

・「生まれてきたことを深く感謝する」というのは今までの私にはなかった世界ですが、神様に言われたと思いそこを目指して頑張りたいです。

今回の書写は夫を愛する神様の心情に出会えることを願って取り組んでいるのですが、今朝夫のどういうところを神様が愛されているのかと思った時に何か理由があるのではなく、無条件に愛していらっしやるのだと思いました。今まで私が天の前に立ててきた条件も、主人の復帰のための条件だったのだらうと思えました。

